

第1回環境基本計画策定部会 会議要旨

日 時：平成30年10月2日（火）18時～19時55分

場 所：大阪市役所 地下第3会議室

議 題：「大阪市環境基本計画」の改定について

出席者：（委員）下田部会長、藤田委員、今西委員、岡委員、原委員、大石委員

（事務局等）北辻環境局長、青野理事兼エネルギー政策室長、池上環境施策部長、
岡本環境施策課長 他

配付資料：次第

環境基本計画策定部会委員名簿

資料1 環境基本計画改定スケジュール

資料2 大阪市環境基本計画 骨子案

資料3 環境基本計画にかかる「未来社会のデザイン」募集要項

参考資料1 大阪市環境基本計画の改定について（諮問）

参考資料2 本市個別計画

参考資料3 第35回環境審議会議事要旨

参考資料4 第35回環境審議会会議録、会議資料1、会議資料1-1、会議資料4

参考資料5 大阪市環境審議会規則

【事務局説明】

事務局より環境基本計画の改定について説明

・委員意見

○ 環境先進都市という言葉がまだ使われている。内閣府等々でも環境未来都市ですとかSDGs未来都市ですとか、そういう言葉が使われている。あえてその環境先進都市として掲げられている意味は。

→ SDGs未来都市への立候補などがあれば、今後変更することもあり得る。

○ 安心安全という、SDGsの3番目のゴールで、健康というキーワードが書かれたところがありますけど、やはり安心、安全、健康という点においては、都市環境の確保が大事だということで、国の環境基本計画の中に、環境リスクの管理ということ、ちょっと下支えする施策が位置づけられていると思う。そういう意味では、それが見えるように絵姿をつくって、やはりアジアの諸国に、ビジネスといいましょうか、環境・省エネ技術を展開して、現時での経済の活性化、あるいは現時での地域の環境改善に資すると同時に、大阪、関西の経済の活性化につなげていく。これはまさしく、まち・ひと・しごとの計画につながっていくもの。少し、そういった見えるスタンスをつくられたらどうか。

- 大阪市地球温暖化対策推進本部ということを活用していこうとあるが、必ずしも地球温暖化対策にとどまらない、もっと幅広い施策をカバーできるのか。検証と基本計画の守備範囲とが一致していないのではないか。
- 市長をトップとするすべての局、区が入った組織で、今、実際に動いている組織として、この手段を使っていく。名称や所掌事務等については柔軟に対応したい。
- 環境基本計画の分野別のマスタープラン、横串を通すような機能を強化していきたいとのことだが、実際に横串を通すのであれば、既に設定されているほかの分野別の計画、それに対しても、意見を述べて本当に全体的に統合したものにしていけないといけないと思うが。
- 生物多様性戦略や農業の基本計画を策定した時は、整合をとりながら策定している。
- 少しこう基本計画のほうに文章として何かきちんと書かれていたほうが、単に図で整合をとってと書いてあるだけではなくて、実際、出向いていって意見を述べるなど記載した方が、はっきりされているのでは。
- 「環境をめぐる国内外の動向」図では、環境基本法があるが、生物多様性基本法がない。国の環境白書も循環型社会推進と生物多様性と環境白書というふうになっているので、国内外の動きとしては、少なくとも生物多様性の基本法ということを追加していただきたい。当該の図は温暖化に傾斜しているような感じを受ける。
- 今回の国の環境基本計画では、「地域循環共生圏」の創生と持続可能な地域づくりというテーマ。国の基本計画との整合ということで、技術や強靱化や環境と幅広い議論の展開が予想されるが、ある程度説明された方が良いのでは。
- SDGs の紐づけは、難しいと思う。国連の公用言語で示されているSDGsの目標は、日本語で翻訳された際に狭くなったり広くなったりしており、これを地域でとした時に、妥当なのかという検証も必要。これは引き続き議論いただきたい。
- 「「新・緑の基本計画」の目標を達成する」という書き方だけだと、単に整合というのを追認している状態にとれるので、もっと積極的に基本計画でこういう目標を決めているから、目標を達成し、さらに何かプラスするもの、環境基本計画としての目標がもう少し書かれた方が良いのでは。
- 自分のやっている仕事を1番から17番までに照らし合わせて考えて、いわゆるシナジー効果。例えば住宅を断熱したら風邪をひかなくなったり病院代が助かるとか、このようなことをもっと広げれば効果が出るのでは。人がつながる横串もあるが、一つ一つの事業が横に広がって

いくということなのでは。

→ SDGs の紐づけをすることによって、縦割りではなく、自分の仕事が基礎自治体としての行政全般に影響しているということを分からせることも必要と考える。

- イノベーションとかというのでいうと、もう工夫しないと、SDGs でもなかなかそれが出てこない。何かそこへ行くと大阪市が何か率先してやることによって、あるいはイノベーションの種を、その都市の中で実現するとか、そういうことをやることによって、ブランドがついて、技術なり、制度なりが、大阪の経済を支えていくという成功ストーリーになるのでは。環境先進都市とは、このようなことを率先するということなのでは。
- 一番市民に、国民に近い基礎自治体ということであれば、もう少しちょっと身近な書き方にされていたほうが、意見が出やすいのでは。SDGs とか、パリ協定といったら何か国際的で、ものすごい遠いところにあるようなイメージを受ける。それが、身近な生活、ライフスタイルの変革でもって何か達成できるというような書き方にしたほうが良いのでは。
- 貧困のゴールは、国際的に見た際の貧困問題と、大阪市で考えた時の貧困は少し違う。17 個を大阪に落とした時にどういう意味があるのかというような市民に分かってもらえるような伝え方が必要なのでは。
- SDGs という言葉を使っていくのであれば、市民向けの分かりやすいパンフレットを作るとか、子ども向けのパンフレットを作るとか、もっと分かりやすい資料を別途つくることもあるのでは。
- 逆に、難しい資料を作らないというやり方も。
- 戦略について、どうやって市民に広げるとか方法的な意味のことが全く書かれていないので一つ追加する必要があるのでは。職員の質の向上とあるが、意識の向上はとても大事だと考えるので、それをどうやって市民に広げるのか。
市民に対しても、インバウンドの外国人に対しても、環境のことを配慮している市であることを、広報活動を通じていろんなところに言ってもらいたい。
- 1対1対応で当てはめてみると、当てる人の濃淡が現れる。すべての目標に対してからすべての主体の参加と協働であると言い切ってしまう工夫も必要なのでは。
- 市民の人が分かりやすいようにということであれば、環境への配慮に関わる事業をいっぱい展開しているので、そのあたりの書きぶりとか、見せ方を意識すると市民の皆様にも理解してもらえるのでは。

- 6年間でこんな項目について戦略を実施しますということを具体的に書いた方が分かりやすいのでは。
- 戦略は、狙いを定めて、どのように育てていくかという意味合いがある。現時点では若干ぼやっとしているので、大阪市の強いメッセージ、5つの柱のところに具体的に何をしたいのかというメッセージを入れてみては。